

ALSOプロバイダーコース *in Aomori*



Advanced Life Support in Obstetrics (ALSO)とは、医師やその他の医療プロバイダーが、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を身につけ、伸ばすための教育コースです。また、産婦人科医のみならずプライマリケア医が分娩を扱えるようになることを意図した訓練でもあります。1991年にACLSとATLSを参考にして、ウィスコンシン州の一般診療医師二人がALSOを考案しました。1993年にAmerican Academy of Family Physicians (AAFP-米国家家庭医学会)によってコース権利は認可され、現在全米ではほとんどの分娩施設において、分娩に関わる医療プロバイダーがALSOを受講することを義務づけられています。さらにALSOコースは世界的に普及活動が行われており、20周年を迎えた2013年には、63カ国、16万人の受講生がALSOプロバイダーコースを完了しています。コースの教材は、シラバス(教科書)、レクチャー、実地訓練のためのマネキンを使用したワークショップです。筆記試験とマネキンによる実技試験(メガデリバリー)がコースの終わりにあります。ALSOは分娩室における産科の救急的対処を強調しており、プロバイダーコースは2日間にわたって行われます。コロナ禍のため、レクチャー部分は事前にeラーニングで学習して頂きますが、少人数グループによるワークショップは、現地開催予定です。肩甲難産、胎位・胎向異常、経膈補助分娩、分娩中の胎児監視、症例検討、そして妊婦蘇生や分娩時異常出血、チームアプローチの確認です。プロバイダーコースを受講し試験に合格した場合は、参加者は3年間有効の認証を受けることができます。参加者は産婦人科医、プライマリケア医、研修医、救急医、助産師、そして医学部生などであり、これまで現在あるいは近い将来の日本の周産期医療体制において、分娩や産科救急に関わる可能性のあるすべての医療人が参加しています。産科救急医療は、産婦人科医だけで維持し続けることが難しい状況になりつつあることは周知の事実です。日本全国のすべての地域で、できるかぎり同じレベルの産科医療を維持するために、産科医療に関わりたいという志を持った人たちが教育を受けられる場所を多く提供し最低限必要な医療チーム体制をあらゆる医療圏に確保する必要があります。まさにその足がかりとなるトレーニングコースがALSOです。

期日:2022年11月26日(土)・27日(日)

会場:弘前大学医学部附属病院

主催:弘前大学医学部産科婦人科学教室

共催:NPO法人周生期医療支援機構

後援:青森県医師会

事務局:〒036-8511 青森県弘前市扇町2丁目2-2

津軽保健生活協同組合健生病院

電話 0172-55-7717

齋藤美貴(mikisaitou.1000@gmail.com)

参加費:35750円(認定料・教材費込み)

募集人数:10名(公募はしません)

